

## 1-5. 生活排水処理の充実

### (1) 現況と課題

本町の生活排水処理施設利用人口は、平成16年度末現在で10,385人（全人口の34%）です。その内訳は、公共下水道接続人口が6,136人、合併処理浄化槽設置人口が2,479人、農業集落排水接続人口が1,770人です。

生活排水処理に支障をきたしている宝積寺市街地では、公共下水道未整備区域の早期着手要望が多数寄せられています。宝積寺駅西地区については、土地区画整理事業の進捗に合せ公共下水道による生活排水処理施設整備や雨水処理施設整備を進めるとともに、宝積寺駅東地区についても、公共下水道により生活排水処理施設を先行整備しています。

公共下水道整備計画区域及び農業集落排水事業実施地域以外では、合併処理浄化槽の全戸設置と適正管理を促進して河川などの水質を保全し、快適な生活環境を実現する必要があります。

### (2) 5年間の政策目標

- ①生活排水処理施設を整備し、快適な生活環境を確保します。
- ②土地区画整理事業と連携し雨水処理施設を整備することにより、安全で快適な生活環境を確保します。
- ③下水道汚泥の全量を資源化し、循環型社会を支えます。
- ④効率的な生活排水処理施設の維持管理手法を確立します。

### (3) 施策

#### 1-5-1. 公共下水道污水管建設

公衆衛生の向上と河川等の水質保全に向けて、宝積寺市街地の駅西第一土地区画整理地内、宝石台1・2丁目、北区の一部と仁井田市街地の公共下水道污水管整備を進めます。

指標		平成16年度		平成22年度	
公共下水道污水管	全体整備計画面積	整備済面積		整備済面積	
宝積寺処理区	438ha	宝積寺処理区	154.8ha	宝積寺処理区	190ha
仁井田処理区	57ha	仁井田処理区	49.3ha	仁井田処理区	57ha
全体	495ha	合計	204.1ha	合計	247ha
全体計画面積（単位：ha）					

参考：下水道普及率（※1）

平成16年度		平成22年度		平成27年度	
全人口	30,770人	全人口	32,495人	全人口	33,458人
公共下水道	9,597人 31%	公共下水道	12,240人 37%	公共下水道	14,432人 43%
農業集落排水	1,901人 6%	農業集落排水	1,901人 6%	農業集落排水	1,901人 6%
合併処理浄化槽	2,479人 8%	合併処理浄化槽	4,102人 13%	合併処理浄化槽	5,567人 16%
合計	13,977人 45%	合計	18,243人 56%	合計	21,900人 65%

（※1 普及率とは町全体の人口に対し、生活排水処理施設を使用可能な人口の割合）

【事業】

- 公共下水道污水管建設
  - ┃ 宝積寺処理区管渠建設費
  - ┃ 仁井田処理区管渠建設費

【関連施策】

- 1-1-1 宝積寺駅西第一土地区画整理事業
- 1-4-1 石綿セメント管更新事業
- 1-4-2 市街地配水管網整備事業

1-5-2. 公共下水道雨水管建設

駅西第一土地区画整理地区の事業進捗に併せて雨水管整備を行い、平成 20 年度の完了を目指します。

指標	平成 16 年度	平成 20 年度
公共下水道雨水管整備延長 駅西第一土地区画整理地区 (単位：m)	4 2 m	1, 7 7 3 m

【事業】

- 公共下水道雨水管建設
  - ┃ 宝積寺処理区雨水対策建設費

【関連施策】

- 1-1-1 宝積寺駅西第一土地区画整理事業

1-5-3. 水処理施設の拡充

公共下水道污水管整備の進捗に併せて、「宝積寺アクアセンター」、「仁井田水処理センター」の汚水処理機能の拡充を図ります。

1-5-4. 合併処理浄化槽の普及

公共下水道区域や農業集落排水事業区域以外の地域においては、住民の意向に沿った整備手法を検討しながら合併処理浄化槽の普及に努めます。

1-5-5. 水洗化率（※2）の向上

生活排水処理施設の利用促進を図るため、広報活動を充実させます。特に、公共下水道が利用できる地区において、まだ公共下水道に接続していない世帯の解消を目指します。

（※2 水洗化率とは、生活排水処理施設が利用可能な人口に対し、実際に利用している人口の割合）

#### **(4) 効率化目標**

- ① 下水道整備のコスト縮減
  - 工事コストの低減                      ・工事計画、設計の見直し・技術基準等の見直し・新技術の採用
  - 時間的コストの低減                  ・工事箇所集中化
  
- ② 下水道維持管理コストの削減
  - ライフサイクルコスト\*の低減      ・維持管理業務委託の見直し・老朽化した処理場の廃合の検討
  - 循環型社会におけるコストの低減   ・下水汚泥の資源化による環境負荷の低減・工事副産物の抑制、再利用の徹底

#### **(5) サービス向上目標**

- ・上下水道窓口業務を一元化し、上下水道使用料や各種申請手続の利便性を向上させます。
- ・情報技術を活用することで、閲覧の簡略化を図り顧客の利便性向上に繋がります。